変額保険
グローバルミックス

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
redefining / standards
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

月次運用レポート

2014年8月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式　50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 （特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社　ALM＆特別勘定運用部が行います。）	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A） 〈適格機関投資家私募〉	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A） 〈適格機関投資家私募〉	
債券　50%		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	

※　特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※　特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険
特別勘定の月次運用レポート （2014年8月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2014年8月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX（東証株価指数）が前月末比△0．89%下落の1，277．97ポイントで終了しました。
月前半は、地政学リスクの高まりを受けて円高米ドル安の動きとなったことなどから下落した後、地政学リスクが後退したことなどから上昇に転じました。月後半は、米国の堅調な経済統計などを受けて上昇しましたが、その後、消費税増税の影響への懸念などからやや下落しました。
業種別（東証33業種）では、一部の銘柄で中期経営計画が評価された「医薬品」（前月末比＋3．69%）が最も上昇した一方、決算内容が嫌気された銘柄の影響により「金属製品」（同△4．56%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半、地政学リスクの高まりなどを背景にやや下落した後、ロシア高官がウクライナでの緊張緩和に向けた調停に乗り出す意向を示したことなどから上昇に転じました。月後半は、堅調な経済統計などを受けて上昇しましたが、ウクライナ情勢を巡る緊張が再び高まったことなどから、月末にかけて上げ幅を縮小しました。NYダウは、前月末比＋3．23%上昇の17，098．45ドルで終了しました。
欧州株式市場は、月前半、地政学リスクの高まりや低調な景気指標などを受けて下落した後、追加金融緩和観測が強まったことなどから上昇基調で推移しました。月後半は、ドイツの景況指数が今年の最低を記録したこともあり追加金融緩和観測がさらに強まったことなどから上昇しましたが、ウクライナ情勢を巡る緊張が再び高まったことなどから、月末にかけてやや下落しました。市場別騰落率は、英FT100が前月末比＋1．33%上昇、仏CAC40が同＋3．18%上昇、独DAXが同＋0．67%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半、地政学リスクの高まりを背景とした株式市場の下落などを受けて、金利は低下（価格は上昇）しました。月後半は、株高・円安などを背景に債券先物への売りが強まったことなどから一時上昇（価格は下落）しましたが、欧米長期金利の低下などを受けて、再び低下しました。新発10年国債利回りは、月末は0．490%となりました（前月末は0．530%）。
日銀はマネタリーベースが年間約60～70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

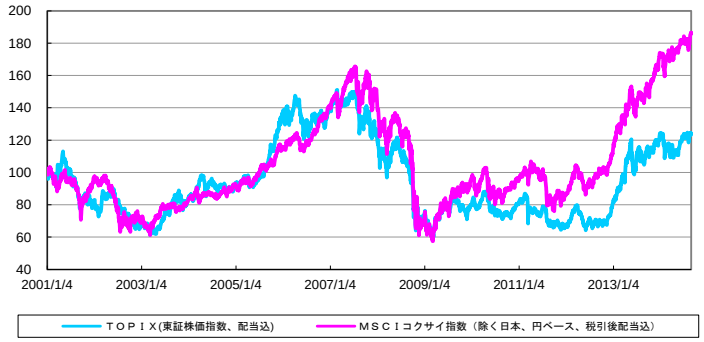
米国債券市場は、月前半、地政学リスクの高まりなどを背景に金利は低下（価格は上昇）基調で推移しました。月後半は、住宅関連指標の改善やウクライナ情勢への警戒感一服などを受けて上昇（価格は下落）した後、相対的な利回りの高さに着目した買いが入ったことなどから低下しました。米10年国債利回りは、月末は2．343%となりました（前月末は2．558%）。
欧州債券市場は、月前半、ECB（欧州中央銀行）総裁が景気回復の勢いの減速に言及したことなどから、金利は低下（価格は上昇）基調で推移しました。月後半も、ドイツの景況指数悪化や、追加金融緩和観測の強まり、ウクライナ情勢の緊迫化などを背景に低下しました。10年国債利回りは、月末は0．890%となりました（前月末は1．155%）。
FRB（米連邦準備制度理事会）は、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．0～0．25%を維持しました。ECB（欧州中央銀行）は政策金利を据え置き、年0．15%を維持しました。

【外国為替市場】

米ドル／円相場は、月前半、地政学リスクの高まりなどを背景にやや円高となった後、ウクライナ情勢や中東情勢が小康状態となったことなどから円安に転じました。月後半は、米国の早期利上げ観測の強まりなどを受けて大幅に円安が進行しましたが、ウクライナ情勢を巡る緊張が再び高まったことなどから、月末にかけてやや円高の動きとなりました。円は対ドルで前月末比89銭円安ドル高の1ドル＝103円74銭となりました（前月末比＋0．87%上昇）。
ユーロ／円相場は、月前半、地政学リスクの高まりなどを背景に円高が進行した後、ウクライナ情勢や中東情勢が小康状態となったことなどから円安に転じました。月後半は、内外株式の上昇などを受けて低リスク通貨とされる円の売りが強まりましたが、その後、ECBの追加金融緩和観測の強まりなどを受けて円高が進行しました。円は対ユーロで前月末比1円4銭円高ユーロ安の1ユーロ＝136円76銭となりました（前月末比△0．75%下落）。

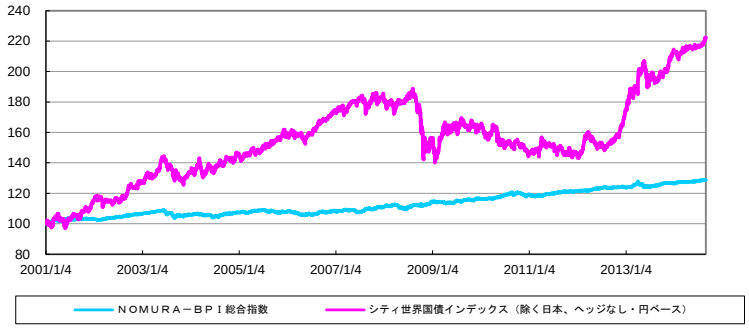
日本と外国の株式市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

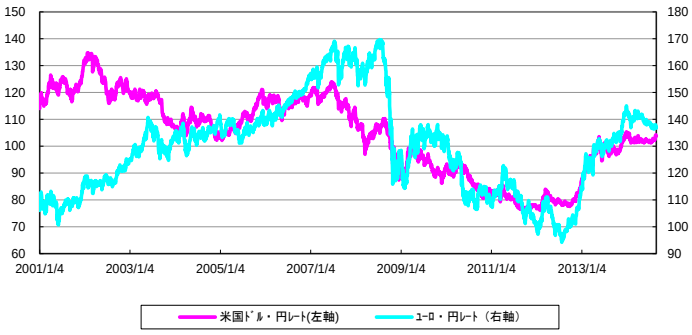


日本と外国の債券市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

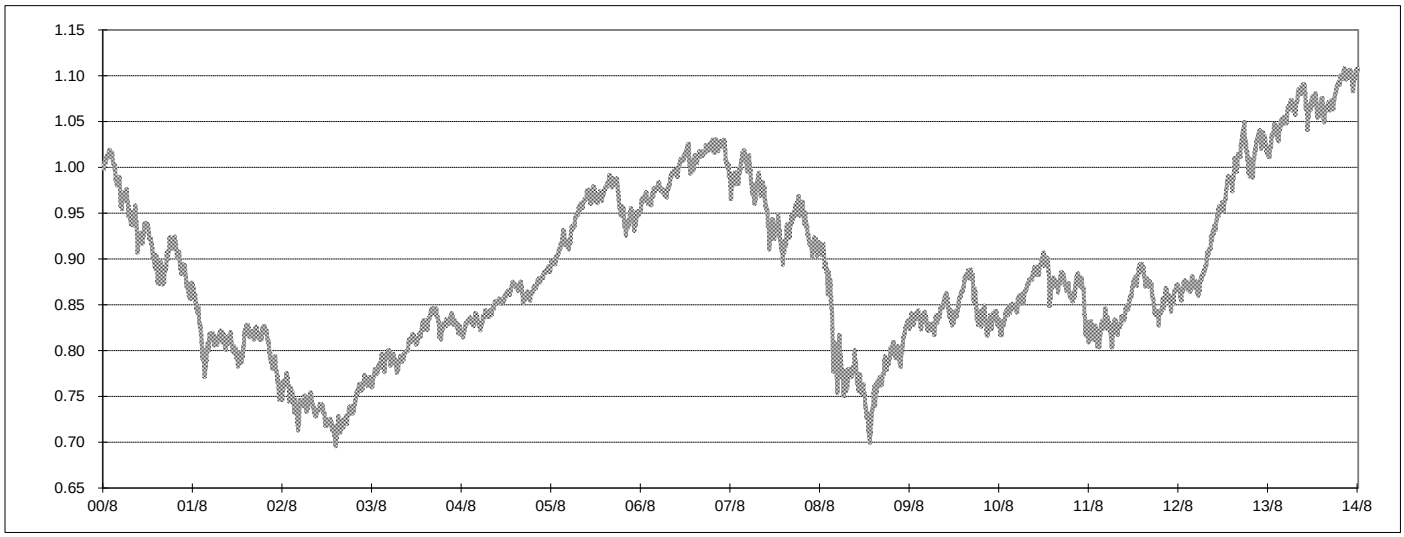
変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年8月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2014年8月 末日現在]

■特別勘定のINDEXの推移

※ 特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2014年8月末	2014年7月末	2014年6月末	2014年5月末	2014年4月末	2014年3月末
INDEX	1.106	1.105	1.099	1.081	1.065	1.069
	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
騰落率（%）	0.07	2.25	3.11	9.37	33.59	10.58

※ 特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1．00として計算しています。

※ 騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

項目		金額（千円）	比率（%）
現預金・その他		1,770,857	4.2
その他有価証券		40,531,267	95.8
	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）	4,200,254	9.9
	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）	6,391,406	15.1
	アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）	7,051,612	16.7
	アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）	4,336,125	10.3
	アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）	18,551,867	43.9
合計		42,302,124	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当月のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。
資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。（株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。）
今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

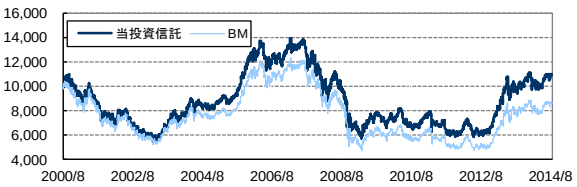
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年8月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年8月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年8月3日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲1.11%	6.23%	5.89%	16.41%	72.70%	8.54%
BM	▲0.89%	6.37%	5.47%	15.54%	65.84%	▲13.80%
差	▲0.22%	▲0.14%	0.42%	0.87%	6.86%	22.34%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年8月3日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）*1です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	マザーファンド
1	電気機器	12.49%
2	輸送用機器	12.12%
3	銀行業	9.60%
4	小売業	7.36%
5	情報・通信業	7.06%
6	化学	6.31%
7	卸売業	5.42%
8	医薬品	4.50%
9	その他業種	34.11%
10	現金等	1.03%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	マザーファンド
1	東京証券取引所第一部	98.97%
2	現金等	1.03%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.45%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.46%
3	日本電信電話	情報・通信業	2.26%
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.09%
5	ソフトバンク	情報・通信業	1.74%
6	KDDI	情報・通信業	1.73%
7	本田技研工業	輸送用機器	1.52%
8	キヤノン	電気機器	1.31%
9	アステラス製薬	医薬品	1.21%
10	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.20%
合計			20.96%
組入銘柄数			262銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲1．11%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前月末比▲0．89%となりました。当月の日本株式市場では、純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた小売が下落したことや少なめに保有していた食品が上昇したことはマイナスに寄与しました。一方個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた大日精化工業（4116）やアークランドサカモト（9842）が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していたヨロズ（7294）やシークス（7613）が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

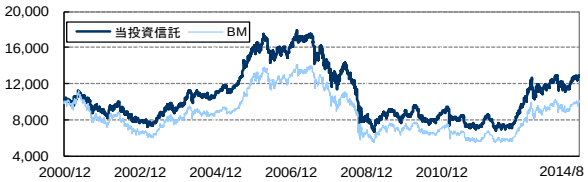
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年8月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年8月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲0.46%	7.35%	7.04%	18.37%	72.49%	27.97%
BM	▲0.89%	6.37%	5.47%	15.54%	65.84%	▲0.88%
差	0.43%	0.98%	1.57%	2.83%	6.65%	28.85%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）[*1]です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	マザーファンド
1	電気機器	12.68%
2	輸送用機器	10.35%
3	化学	8.54%
4	銀行業	8.06%
5	情報・通信業	7.30%
6	卸売業	6.70%
7	医薬品	6.42%
8	小売業	6.02%
9	その他業種	32.05%
10	現金等	1.88%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	マザーファンド
1	東京証券取引所第一部	97.33%
2	ジャスダック証券取引所	0.41%
3	東京証券取引所第二部	0.38%
4	名古屋証券取引所第一部	0.01%
5	名古屋証券取引所第二部	0.00%
6	現金等	1.88%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.06%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.46%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.75%
4	日本電信電話	情報・通信業	2.52%
5	キヤノン	電気機器	2.07%
6	アステラス製薬	医薬品	2.05%
7	KDDI	情報・通信業	1.99%
8	日産自動車	輸送用機器	1.77%
9	東海旅客鉄道	陸運業	1.72%
10	三菱電機	電気機器	1.66%
合計			24.04%
組入銘柄数			133銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲0．46%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前月末比▲0．89%となりました。当月の日本株式市場は、純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた投資会社が下落したことや、少なめに保有していた食品が上昇したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたセイコーエプソン（6724）や日東電工（6988）が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた富士通（6702）やNTN（6472）が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

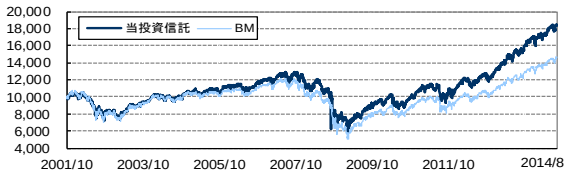
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年8月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年8月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	1.40%	4.17%	8.23%	24.17%	79.14%	84.80%
BM	1.34%	3.93%	7.56%	21.62%	63.08%	46.07%
差	0.07%	0.24%	0.67%	2.54%	16.06%	38.73%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数[*2]
　（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」（バリュー株）を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	ソフトウェア・サービス	13.00%
2	エネルギー	10.96%
3	医薬品・バイオテクノ・ライフ	9.66%
4	資本財	8.52%
5	テクノロジー・ハードウェア	7.31%
6	銀行	4.94%
7	保険	4.35%
8	食品・飲料・タバコ	4.19%
9	その他業種	36.46%
10	現金等	0.61%
	合計	100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	3.71%
2	WELLS FARGO & COMPANY	アメリカ	銀行	2.03%
3	EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	1.92%
4	PFIZER INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.85%
5	INTL BUSINESS MACHINES CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.72%
6	GILEAD SCIENCES INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.56%
7	ORACLE CORPORATION	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.47%
8	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.44%
9	GOOGLE INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.30%
10	GOOGLE INC-CL C	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.28%
	合計			18.29%
	組入銘柄数			219銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋1．40%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）の騰落率は、前月末比＋1．34%となりました。当月の米国株式市場は、企業収益の変動率の大きい銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、少なめに保有していた移動体通信が下落したことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた医薬品・バイオテクノ・ライフのGilead Sciences IncやAmgen Incが上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していたエネルギーのApache Corpが下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

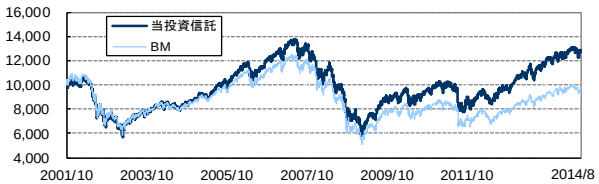
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年8月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年8月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.20%	▲1.43%	1.31%	13.02%	54.77%	27.84%
BM	0.10%	▲1.85%	0.21%	10.48%	39.64%	▲2.98%
差	0.10%	0.41%	1.10%	2.55%	15.13%	30.82%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数[*3]
　（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」（バリュー株）を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国別構成比率

	国名	マザーファンド
1	イギリス	30.37%
2	フランス	14.85%
3	スイス	12.83%
4	ドイツ	12.36%
5	オランダ	5.87%
6	スペイン	5.54%
7	スウェーデン	4.56%
8	デンマーク	3.09%
9	その他の国	9.78%
10	現金等	0.75%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	医薬品・バイオテクノ・ライフ	11.82%
2	食品・飲料・タバコ	10.05%
3	銀行	9.23%
4	素材	9.00%
5	エネルギー	8.14%
6	資本財	8.11%
7	保険	7.73%
8	電気通信サービス	5.99%
9	その他業種	29.16%
10	現金等	0.75%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.23%
2	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.13%
3	BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	食品・飲料・タバコ	2.10%
4	ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.99%
5	SIEMENS AG	ドイツ	資本財	1.91%
6	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.77%
7	ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.76%
8	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	1.73%
9	BHP BILLITON PLC	イギリス	素材	1.54%
10	RIO TINTO PLC	イギリス	素材	1.43%
合計				18.60%
組入銘柄数				201銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋0．20%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）の騰落率は前月末比＋0．10%となりました。当月の欧州株式市場は、配当利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた金属が下落したことや少なめに保有していた航空機が上昇したことはマイナスに寄与しました。国別では下落したイタリアの銘柄を少なめに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落したデンマークの銘柄を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた医薬品・バイオテクノ・ライフのAstrazeneca Plc（イギリス）が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた素材のBHP Billiton Plc（イギリス）が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

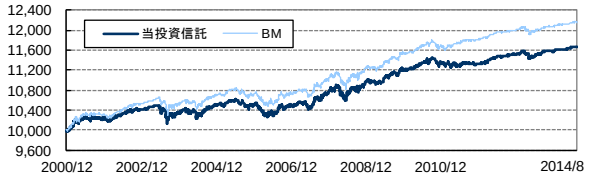
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年8月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年8月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.05%	0.28%	0.40%	1.17%	2.93%	16.70%
BM	0.01%	0.25%	0.41%	1.14%	3.09%	21.63%
差	0.04%	0.03%	▲0.01%	0.03%	▲0.16%	▲4.93%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス（総合*4、中期3年以上7年未満）です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　資産構成

	修正デュレーション	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
公社債	4.51 年	98.14%
国債	5.36 年	71.42%
地方債	0.00 年	0.00%
特殊債・財投債	1.80 年	2.89%
金融債	0.24 年	0.93%
社債等	2.38 年	22.90%
その他	0.00 年	0.00%
短期資産等*	0.00 年	1.86%
合計	4.43 年	100.00%

＊　債券先物を含みます。

※「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○　公社債の格付別構成比率

格付区分	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
AAA	0.00%
AA	84.56%
A	12.04%
BBB	3.40%
BB以下（無格付含）	0.00%
合計	100.00%

格付基準：
※ 海外格付機関の格付を優先します。
※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付 ムーディーズ	格付 S&P	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
1	第303回利付国債（10年）	日本	1.400%	2019年9月20日	Aa3	AA-	8.45%
2	第326回利付国債（10年）	日本	0.700%	2022年12月20日	Aa3	AA-	6.35%
3	第106回利付国債（5年）	日本	0.200%	2017年9月20日	Aa3	AA-	5.79%
4	第305回利付国債（10年）	日本	1.300%	2019年12月20日	Aa3	AA-	5.42%
5	第322回利付国債（10年）	日本	0.900%	2022年3月20日	Aa3	AA-	4.85%
6	第330回利付国債（10年）	日本	0.800%	2023年9月20日	Aa3	AA-	4.70%
7	第109回利付国債（5年）	日本	0.100%	2018年3月20日	Aa3	AA-	3.25%
8	第315回利付国債（10年）	日本	1.200%	2021年6月20日	Aa3	AA-	2.97%
9	第295回利付国債（10年）	日本	1.500%	2018年6月20日	Aa3	AA-	2.94%
10	第298回利付国債（10年）	日本	1.300%	2018年12月20日	Aa3	AA-	2.93%
合計							47.66%
組入銘柄数							49銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○　ポートフォリオの状況

	ﾏｻﾞｰﾌｧﾝﾄﾞ
平均複利利回り	0.24%
平均クーポン	1.13%
平均残存期間	4.57

※「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋0．05%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス（総合、中期3年以上7年未満）は前月末比＋0．01%となりました。当月の当投資信託は前月からの戦略を維持し、ベンチマークをやや上回る結果となりました。日本の4－6月期のGDP成長率は予想より弱い結果となりましたが、7月の鉱工業指数など一部の経済指標にはよい結果もみられたため、安全資産である国債市場への逃避は弱まりました。当月末の日本10年国債の利回りは前月末比0．040%低下の0．490%となりました。
委託会社は、景気の回復等を背景に株式市場などより高リターンが得られる市場へ資金が流れ、日本国債の利回りには上昇圧力がかかる可能性があるものの日銀の量的緩和による買入れで一定幅での動きになると予想しています。今後の当投資信託の方針として、デュレーション戦略では徐々に短期化を進め、種別戦略ではベンチマーク対比での国債の少なめの配分と非国債の多めの配分を維持する予定です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S＆P500種株価指数」とは、スタンダード＆プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は
スタンダード＆プアーズ社に帰属しています。S＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S＆P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（ユーロベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス（総合）」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、
金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

○変額保険の仕組み
変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。
*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて
①市場リスク
特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額（有期型の場合、満期保険金を含む）や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク
万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

契約月別の運用実績の例

（一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合）

契約日	終身型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成12年　8月　1日	1,000	−493	10.58	0.72
平成12年　9月　1日	1,000	−500	8.95	0.61
平成12年　10月　1日	1,000	−478	12.06	0.82
平成12年　11月　1日	1,000	−460	14.60	0.99
平成12年　12月　1日	1,000	−439	17.52	1.18
平成13年　1月　1日	1,000	−420	20.11	1.35
平成13年　2月　1日	1,000	−431	17.92	1.22
平成13年　3月　1日	1,000	−396	22.96	1.54
平成13年　4月　1日	1,000	−376	25.72	1.72
平成13年　5月　1日	1,000	−398	21.72	1.48
平成13年　6月　1日	1,000	−391	22.46	1.54
平成13年　7月　1日	1,000	−377	24.16	1.66
平成13年　8月　1日	1,000	−350	27.82	1.89
平成13年　9月　1日	1,000	−312	33.31	2.24
平成13年　10月　1日	1,000	−265	40.13	2.65
平成13年　11月　1日	1,000	−280	37.25	2.50
平成13年　12月　1日	1,000	−285	35.98	2.44
平成14年　1月　1日	1,000	−285	35.56	2.43
平成14年　2月　1日	1,000	−258	39.27	2.67
平成14年　3月　1日	1,000	−264	37.71	2.59
平成14年　4月　1日	1,000	−277	35.21	2.46
平成14年　5月　1日	1,000	−270	35.80	2.51
平成14年　6月　1日	1,000	−272	35.02	2.48
平成14年　7月　1日	1,000	−235	40.24	2.82
平成14年　8月　1日	1,000	−201	45.11	3.13
平成14年　9月　1日	1,000	−197	45.11	3.15
平成14年　10月　1日	1,000	−168	49.23	3.42
平成14年　11月　1日	1,000	−165	49.21	3.44
平成14年　12月　1日	1,000	−177	46.62	3.31
平成15年　1月　1日	1,000	−150	50.47	3.56
平成15年　2月　1日	1,000	−124	54.07	3.80
平成15年　3月　1日	1,000	−116	54.67	3.87

契約日	終身型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成15年　4月　1日	1,000	−112	54.86	3.90
平成15年　5月　1日	1,000	−127	51.70	3.75
平成15年　6月　1日	1,000	−140	49.09	3.61
平成15年　7月　1日	1,000	−156	45.96	3.44
平成15年　8月　1日	1,000	−165	44.10	3.35
平成15年　9月　1日	1,000	−172	42.51	3.27
平成15年　10月　1日	1,000	−172	41.88	3.26
平成15年　11月　1日	1,000	−182	39.93	3.15
平成15年　12月　1日	1,000	−177	40.16	3.19
平成16年　1月　1日	1,000	−186	38.26	3.08
平成16年　2月　1日	1,000	−195	36.30	2.97
平成16年　3月　1日	1,000	−205	34.37	2.85
平成16年　4月　1日	1,000	−216	32.22	2.72
平成16年　5月　1日	1,000	−213	32.16	2.74
平成16年　6月　1日	1,000	−202	33.31	2.84
平成16年　7月　1日	1,000	−211	31.51	2.73
平成16年　8月　1日	1,000	−193	33.65	2.92
平成16年　9月　1日	1,000	−192	33.39	2.92
平成16年　10月　1日	1,000	−190	33.18	2.93
平成16年　11月　1日	1,000	−184	33.47	2.98
平成16年　12月　1日	1,000	−193	31.71	2.87
平成17年　1月　1日	1,000	−205	29.51	2.71
平成17年　2月　1日	1,000	−202	29.38	2.72
平成17年　3月　1日	1,000	−213	27.34	2.58

注（1）保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

（2）契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成26年8月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

（3）年複利は契約月別運用実績を年複利換算したものです。

（4）終身型は、平成17年3月31日で販売終了しています。

（5）有期型は平成14年10月31日で販売終了しています。平成24年10月31日で全ての契約が保険期間を満了しました。